

平成23年10月20日



暖房器具による事故の防止について（注意喚起）

NITE製品安全センターに通知された製品事故情報のうち、平成18年度から22年度に発生した暖房器具（※1）の事故は2,314件（※2）ありました。被害状況は、死亡事故195件（233人）、重傷事故64件（92人）、軽傷事故367件（540人）でした。1室以上の火災（※3）は、990件（全事故件数中43%）でした。死亡事故のうち、誤使用・不注意によるものは101件（114人）でした。

暖房器具の事故を製品別にみると電気ストーブ（948件）、石油ストーブ（633件）、石油温風暖房機（281件）による火災等の事故が多発しています。また、事故原因についてみると誤使用・不注意によるものは798件（全事故件数中34%）ありました。特に石油ストーブでは633件中397件と6割以上の事故が誤使用・不注意によって発生しています。

暖房器具による事故は11月から増加する傾向にあります。特に震災後は、節電指向により石油ストーブの需要が高まり、今まで使っていなかった古い暖房器具を持ち出して使用したり使い慣れていない暖房器具を使用したりする機会の増加が予想され、更なる事故の増加が予想されることから、正しく安全に使用し、暖房器具による事故を防止する目的で注意喚起することとしました。

（※1）暖房器具のうち、電気ストーブ、石油ストーブ、電気温風暖房機（電気ファンヒータを含む）、石油温風暖房機（石油ファンヒータを含む）ガス温風暖房機（ガスファンヒータを含む）及びガスストーブ、に限る

（※2）平成23年9月30日現在、重複、対象外情報を除いた件数

（※3）柱、床など建物に火が及んだもの

1. 暖房器具による事故について

(1) 年度別・製品別の事故件数について

NITE製品安全センターに通知された製品事故情報のうち、平成18年度から22年度に発生した暖房器具の事故は2,314件ありました。年度別・製品別の事故件数を表1に示します。

暖房器具の事故を製品別にみると電気ストーブ948件（41%）、石油ストーブ633件（27%）、電気温風暖房機316件（14%）、石油温風暖房機281件（12%）、ガス温風暖房機79件（3%）、ガスストーブ57件（3%）でした。特に電気ス

トープと石油ストーブで事故が多発しています。

表1 年度別・製品別の事故件数

(平成18年度から22年度)

(件) (※4)

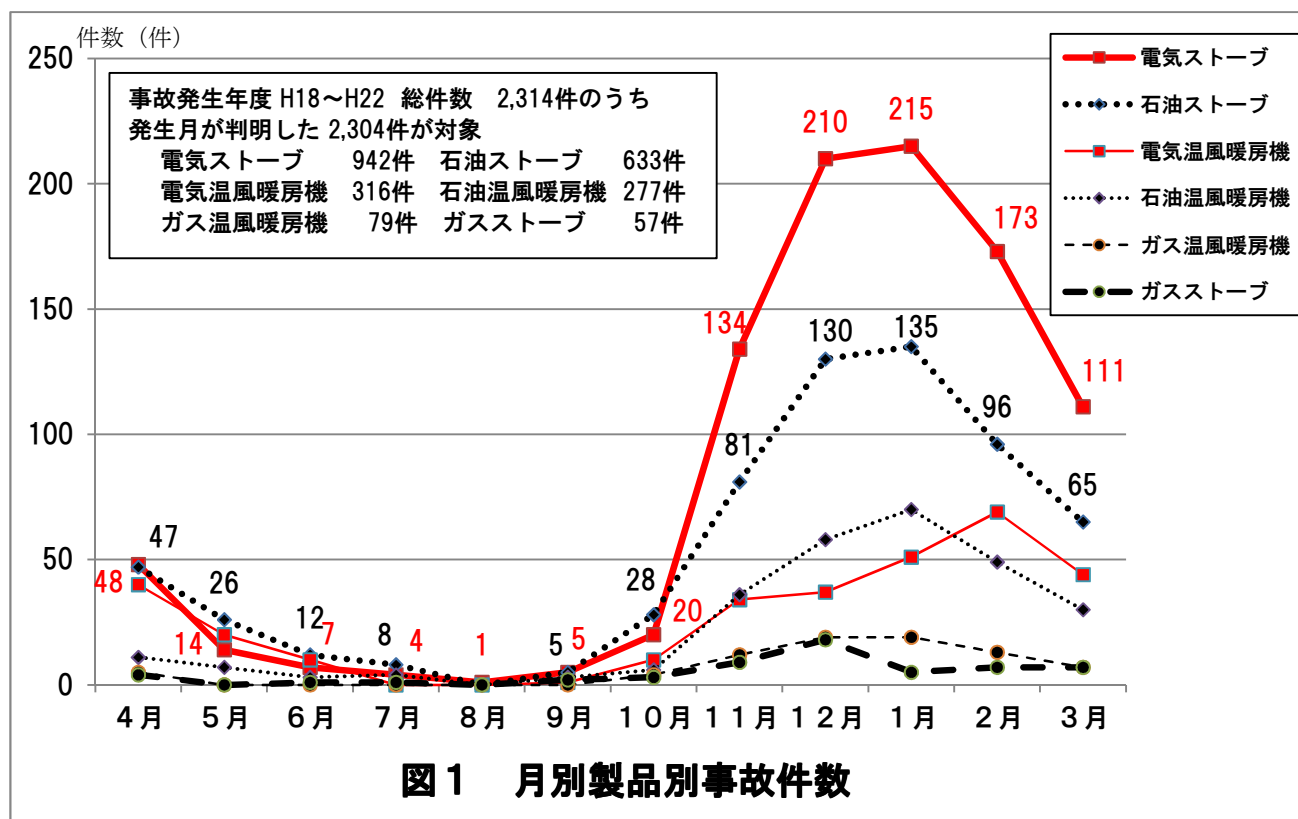
製品名	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	合計
電気ストーブ	229	276	211	140	92	948
石油ストーブ	188	215	97	80	53	633
電気温風暖房機	15	53	40	157	51	316
石油温風暖房機	59	73	56	48	45	281
ガス温風暖房機	14	24	13	17	11	79
ガスストーブ	14	17	5	9	12	57
合計	519	658	422	451	264	2,314

(※4) 平成23年9月30日現在、重複、対象外情報を除いた件数

(2) 事故の月別発生件数について

平成18年度から22年度に発生した暖房器具の事故のうち、発生月が判明した2,304件について、月別製品別事故件数を図1に示します。

暖房器具の事故は11月から増加し、1月に最も多く発生しています。



(3) 事故の被害状況について

平成18年度から22年度に発生した暖房器具の事故2,314件について製品別の被害状況を表2に示します。

暖房器具の事故の被害状況は、死亡事故195件（233人）、重傷事故64件（92人）、軽傷事故367件（540人）でした。1室以上の火災は、990件でした。暖房器具の事故では死亡事故が多く発生し、特に石油ストーブ89件（14%）と電気ストーブ68件（7%）で多発しています。人的被害は、石油ストーブで633件中303件発生し、特に多くなっています。また、1回の事故で複数の人に被害が及ぶ特徴があります。

暖房器具の死亡事故195件のうち、誤使用・不注意によるものは、101件（114人）でした。誤使用・不注意による事故を製品別に見ると、石油ストーブ397件、電気ストーブ218件、石油温風暖房機93件で多く発生しています。誤使用・不注意による事故は、特に石油ストーブに多く発生しています。

表2 製品別の被害状況

（平成18年度から22年度）

（件）（※5）

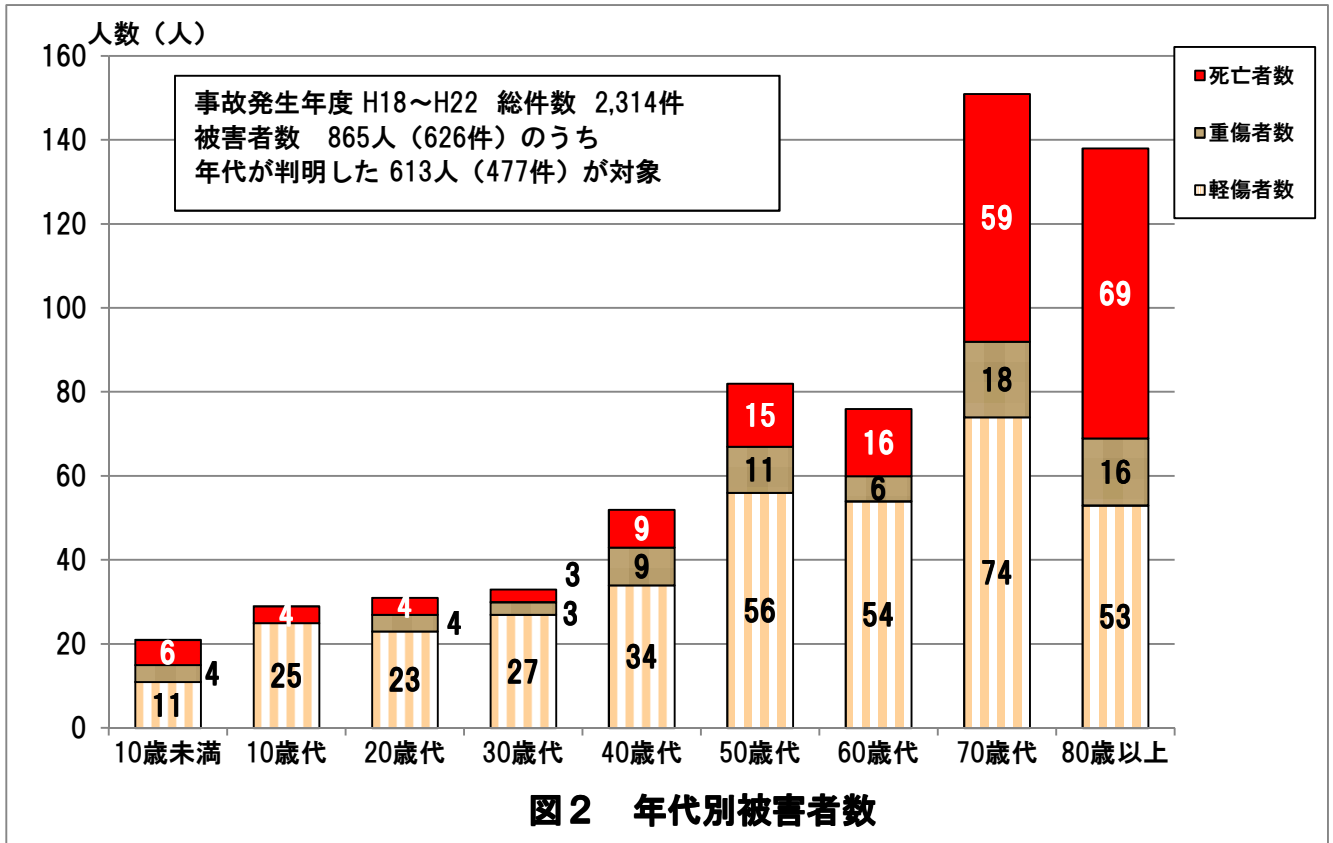
被害状況 製品名	人的被害			物的被害		被害なし	合計
	死亡	重傷	軽傷	※6 拡大被害	製品破損		
電気ストーブ	68 <43> (74) [65]	16 <9> (27) [14]	100 <56> (135) [65]	403 <97> [181]	328 <13> [9]	33 <0>	948 <218> (236) [334]
石油ストーブ	89 <47> (115) [87]	29 <18> (42) [24]	185 <123> (287) [149]	286 <191> [220]	32 <13>	12 <5>	633 <397> (444) [480]
電気温風暖房機	6 <2> (8) [6]	1 <1> (1) [1]	4 <1> (7) [4]	38 <11> [15]	265 <1>	2 <0>	316 <16> (16) [26]
石油温風暖房機	21 <5> (21) [20]	7 <2> (9) [3]	56 <28> (81) [24]	108 <34> [67]	37 <10>	52 <14>	281 <93> (111) [114]
ガス温風暖房機	4 <1> (4) [3]	3 <2> (3) [2]	12 <6> (16) [6]	21 <14> [5]	30 <15>	9 <1>	79 <39> (23) [16]
ガスストーブ	7 <3> (11) [4]	8 <5> (10) [1]	10 <6> (14) [2]	23 <18> [13]	7 <3>	2 <0>	57 <35> (35) [20]
合計	195 <101> (233) [185]	64 <37> (92) [45]	367 <220> (540) [250]	879 <365> (0) [501]	699 <55> (0) [9]	110 <20> (0) [0]	2,314 <798> (865) [990]

（※5）平成23年9月30日現在、重複、対象外情報を除いた件数。被害状況別で「死亡」、「重傷」、「軽傷」と同時に「拡大被害」や「製品破損」が発生している場合は、「拡大被害」や「製品破損」にはカウントせず。また、< >内の数字は事故件数の内数で誤使用・不注意事故の件数、（ ）の数字は被害者の人数、[]の数字は事故件数の内数で1室以上の火災の件数。

（※6）N I T Eでは、製品本体のみの被害（製品破損）にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としています。

(4) 事故の年代別被害者数について

平成18年度から22年度に発生した暖房器具の事故2,314件のうち、人的被害のあった626件(865人)中、被害者の年代が判明した613人(477件)について、年代別被害者数を図2に示します。年代が高くなるほど被害者が増加し、死亡者の割合が高くなっています。

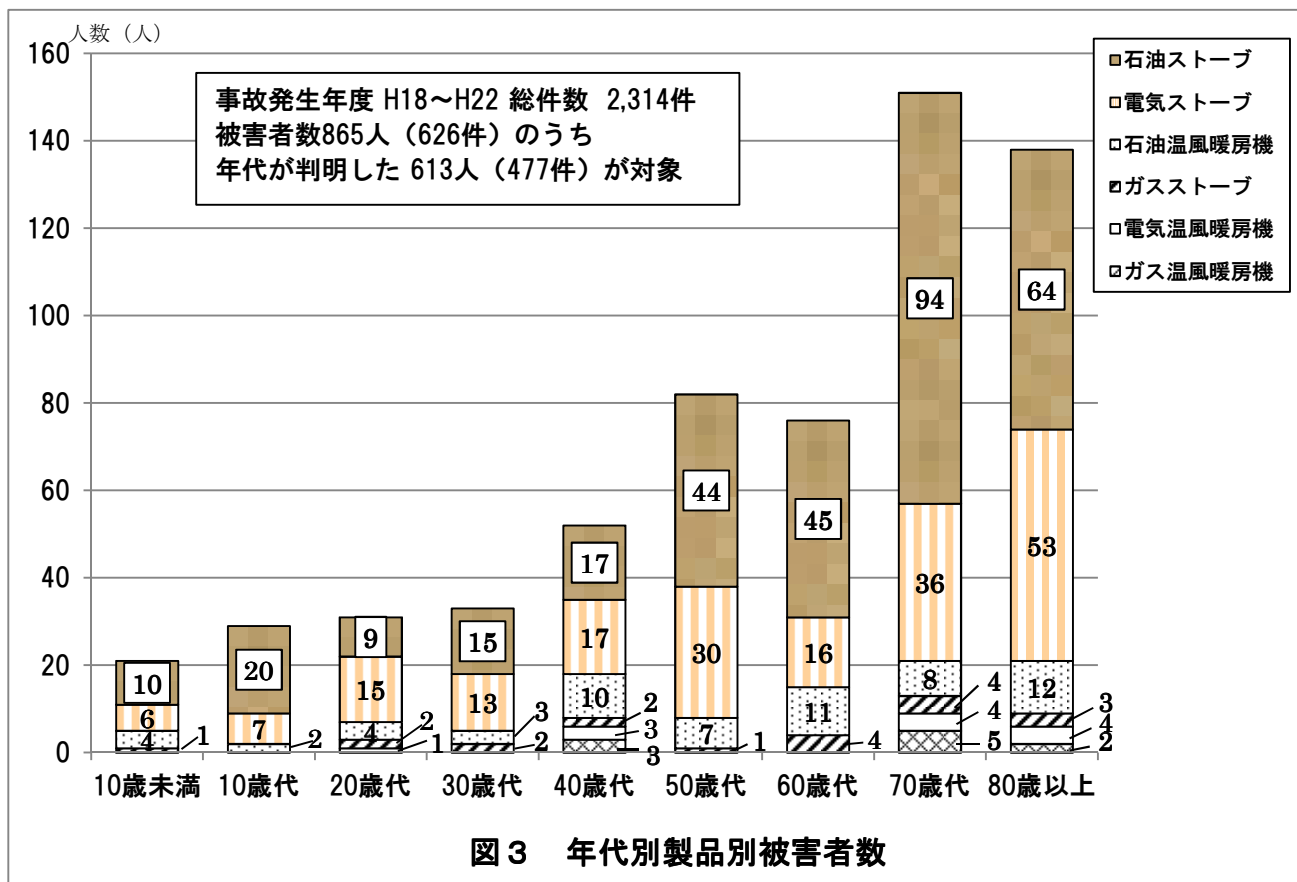


平成18年度から22年度に発生した暖房器具の事故2,314件のうち、死亡事故195件(233人)中、被害者の年代が判明した185人について、年代別・製品別死亡者数を表3に示します。死亡者は、石油ストーブや電気ストーブを使用する高齢者に特に多くなっています。

表3 年代別・製品別死亡者数

製品名 \ 年代	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	合計
石油ストーブ	6	4	2	2	4	9	8	29	23	87
電気ストーブ	0	0	1	1	3	4	4	21	36	70
石油温風暖房機	0	0	0	0	1	2	2	4	5	14
電気温風暖房機	0	0	1	0	1	0	0	2	2	6
ガスストーブ	0	0	0	0	0	0	2	3	1	6
ガス温風暖房機	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
合計	6	4	4	3	9	15	16	59	69	185

平成18年度から22年度に発生した暖房器具の事故2,314件のうち、人的被害のあった626件(865人)中、被害者の年代が判明した613人(477件)について、年代別製品別被害者数を図3に示します。石油ストーブと電気ストーブでは、どの年代においても被害者が発生していますが、高齢者では特に多くなっています。



(5) 石油ストーブの事故について

平成18年度から22年度に発生した石油ストーブの事故633件について、現象別被害状況を表4に示します。

石油ストーブの事故の被害状況は、死亡事故89件(115人)、重傷事故29件(42人)、軽傷事故185件(287人)でした。1室以上の火災は、479件でした。

石油ストーブの事故を現象別にみると「カートリッジタンクのふたの締め方が不完全」105件、「洗濯物等の乾燥に使用」90件、「可燃物が接触し着火」87件が多発し、死亡事故も多く発生しています。

なお、このような事故を防止するため石油ストーブでは、消費生活用製品安全法において製品指定され、平成21年4月1日から販売に関して次の3点が義務付けられました。2年間の販売猶予期間を経て、平成23年4月1日からPSCマークのない石油ストーブ(※7)は販売できなくなりました。

- ① カートリッジタンクの給油時消火装置を取り付けること。

- ② カートリッジタンクの給油口ふたは、開閉状況を判断でき、閉まったことが音、目視又は感触で確認できること。
- ③ ガソリン厳禁又はガソリン使用禁止、衣類乾燥厳禁の注意事項を表示すること。
- (※7) 石油ストーブのうち、灯油の消費量が12キロワット（開放燃焼式のものであつて自然通気形のものにあつては、7キロワット）以下のものに限る

表4 石油ストーブの現象別被害状況

(平成18年度から22年度)

(※8)

被害状況 現象の内容	人的被害			物的被害		被害なし	合計
	死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損		
カートリッジタンクのふたの締め方が不完全であった	18 (20) [18]	2 (6) [2]	35 (48) [31]	45 [36]	4	1	105 (74) [87]
洗濯物等の乾燥に使用中に乾燥した洗濯物の落下等	11 (18) [11]	4 (6) [4]	21 (33) [21]	54 [52]			90 (57) [88]
可燃物（布団・衣類・紙類等）が接触し着火した	20 (22) [20]	9 (12) [8]	21 (43) [18]	37 [31]			87 (77) [77]
ガソリンを誤給油	2 (2) [2]	1 (1)	16 (23) [15]	19 [14]	4		42 (26) [31]
燃焼筒の位置が不完全	3 (3) [2]		9 (13) [4]	13 [9]	1		26 (16) [15]
こぼれた灯油に引火した		3 (4) [3]	12 (18) [12]	7 [6]			22 (22) [21]
誤って転倒させる	3 (3) [3]	1 (2) [1]	2 (3) [1]	7 [5]			13 (8) [10]
その他	5 (7) [5]	1 (1)	23 (36) [9]	43 [27]	13	6	91 (44) [41]
不明	14 (21) [14]	5 (6) [5]	19 (29) [15]	21 [16]	2	1	62 (56) [50]
専ら設計上、製造上又は表示に問題があったと考えられるもの				1	2	2	5 (0) [0]
調査中のもの	13 (19) [12]	3 (4) [1]	27 (41) [23]	39 [24]	6	2	90 (64) [60]
合計	89 (115) [87]	29 (42) [24]	185 (287) [149]	286 (0) [220]	32 (0) [0]	12 (0) [0]	633 (444) [480]

(※8) 平成23年9月30日現在、重複、対象外情報を除いた件数。被害状況別で「死亡」、「重傷」、「軽傷」と同時に「拡大被害」や「製品破損」が発生している場合は、「拡大被害」や「製品破損」にはカウントせず。また、()の数字は被害者の人数、[]の数字は内数で1室以上の火災の件数。

(6) 電気ストーブの事故について

平成18年度から22年度に発生した電気ストーブの事故948件について、現象別被害状況を表5に示します。

電気ストーブの事故の被害状況は、死亡事故68件(74人)、重傷事故16件(27人)、軽傷事故100件(135人)でした。1室以上の火災は、334件でした。

電気ストーブの事故を現象別にみると「可燃物が接触し着火」214件が多発し、死亡事故も多く発生しています。

表5 電気ストーブの現象別被害状況

(平成18年度から22年度)

(※9)

現象の内容	人的被害			物的被害		被害なし	合計
	死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損		
可燃物(布団、衣類、紙類等)が輻射熱で過熱または接触し着火	51 (54) [48]	9 (17) [9]	52 (71) [43]	91 [75]	9		214 (142) [175]
電源コードに過度の屈曲や機械的ストレスが加わり断線			2 (2) [1]	7 [4]	8		17 (2) [5]
洗濯物等の乾燥に使用し、乾燥した洗濯物が暖房器具周辺に落下した等	3 (3) [3]	1 (1) [1]	4 (7) [4]	5 [5]			13 (11) [13]
長期使用により、部品の接点の劣化やコードの極度の屈曲による半断線等で発火	1 (1) [1]			4			5 (1) [1]
転倒させた	1 (1) [1]			2 [2]			3 (1) [3]
プラグとコンセントの接続部で接触不良				2	1		3 (0) [0]
その他		1 (1)	8 (8) [4]	28 [9]	17 [1]	2	54 (9) [14]
不明	7 (9) [7]	5 (8) [4]	14 (22) [6]	59 [29]	27	11	123 (39) [46]
専ら設計上、製造上又は表示に問題があったと考えられるもの			15 (17) [5]	154 [34]	242 [6]	10	421 (17) [45]
調査中のもの	5 (6) [5]		5 (8) [2]	51 [23]	24 [2]	10	95 (14) [32]
合計	68 (74) [65]	16 (27) [14]	100 (135) [65]	403 (0) [181]	328 (0) [9]	33 (0) [0]	948 (236) [334]

(※9) 平成23年9月30日現在、重複、対象外情報を除いた件数。被害状況別で「死亡」、「重傷」、「軽傷」と同時に「拡大被害」や「製品破損」が発生している場合は、「拡大被害」や「製品破損」にはカウントせず。また、()の数字は被害者の人数、[]の数字は内数で1室以上の火災の件数。

(7) 石油温風暖房機の事故について

平成18年度から22年度に発生した石油温風暖房機の事故281件の被害状況は、死亡事故21件(21人)、重傷事故7件(9人)、軽傷事故56件(81人)でした。1室以上の火災は、114件でした。

石油温風暖房機の事故を現象別にみると「ガスボンベ、スプレー缶等が輻射熱で過熱し引火」22件(軽傷10件、拡大被害11件、被害なし1件)、「カートリッジタンクのふたの締め方が不完全であった」16件(死亡2件、軽傷5件、拡大被害5件、被害なし4件)、「ガソリンを誤給油」16件(軽傷8件、拡大被害7件、製品破損1件)、「変質・不良灯油の使用」15件(軽傷2件、拡大被害1件、製品破損3件、被害なし9件)が発生しています。

石油ストーブよりも被害の程度は比較的小さいのですが、「カートリッジタンクのふたの締め方が不完全であった」では死亡事故が2件(2人)起きています。

(8) ガスストーブの事故について

平成18年度から22年度に発生したガスストーブの事故57件について、現象別被害状況を表5に示します。

ガスストーブの事故の被害状況は、死亡事故7件(11人)、重傷事故8件(10人)、軽傷事故10件(14人)でした。1室以上の火災は、20件でした。

ガスストーブの事故を現象別にみると「ガス栓とガスホースの接続が不十分」17件(重傷1件、軽傷2件、拡大被害10件、製品破損4件)、「可燃物(布団、衣類、紙類等)が接触し着火」10件(死亡2件、重傷4件、軽傷1件、拡大被害3件)が起きています。「可燃物(布団、衣類、紙類等)が接触し着火」では、死亡事故が2件(2人)起きています。

2. 事故事例の概要について

暖房器具(石油ストーブ、電気ストーブなど)には、次の情報が報告されています。

(1) 石油ストーブ

① 平成20年3月12日(東京都、女性・80歳以上、死亡)

(事故内容)

住宅から出火して、部屋の一部を焼き、1人が死亡した。

(事故原因)

石油ストーブを消火せずにカートリッジタンクに給油をしたところ、カートリッジタンクのふた(ネジ式)の締め方が不完全であったため、本体にセットしようとした際に、漏れた灯油にストーブの火が引火し、火災に至ったものと推定される。

② 平成20年11月10日(北海道、男性・70歳代、死亡)

(事故内容)

木造住宅から出火して、同住宅を全焼し、1人が死亡した。

(事故原因)

石油ストーブの上方に干していた洗濯物がストーブの上に落下し、火災に至ったものと推定される。

③ 平成20年5月11日（秋田県、男性・50歳代、死亡）

（事故内容）

木造住宅から出火して部屋を焼き、1人が死亡した。

（事故原因）

石油ストーブの上にコルク製の鍋敷きを置いたまま、ストーブを点火したため、火災に至ったものと推定される。

④ 平成20年11月17日（愛知県、性別・年代不明、死亡）

（事故内容）

火災が発生し、1人が死亡した。

（事故原因）

石油ストーブにガソリンを誤給油したことにより、異常燃焼し、火災に至ったものと推定される。

⑤ 平成21年1月24日（鹿児島県、性別・年代不明、軽傷）

（事故内容）

石油ストーブから出火する火災が発生し、住宅が全焼した。燃焼している当該製品を持ち出す際に1人がやけどを負った。

（事故原因）

石油ストーブの燃焼筒を持ち上げ点火した後、燃焼筒を適切に据え付けなかったため、異常燃焼となり、消火のため持ち出そうとしたが、落としてしまい、周囲の可燃物に引火したものと推定される。

⑥ 平成20年3月27日（東京都、性別・年代不明、拡大被害）

（事故内容）

石油ストーブに灯油を給油後点火したところ、給油の際にこぼれていた灯油に引火し、集合住宅を全焼した。

（事故原因）

給油の際に付近及びストーブ内にこぼした灯油を、完全にふき取らずにストーブに点火したため、残った灯油に引火し火災に至ったものと推定される。

(2) 電気ストーブ

① 平成20年3月24日（千葉県、50歳代・男性、死亡）

（事故内容）

ヒーターやストーブがある居間付近から出火して木造住宅を全焼し、1人が死亡した。

（事故原因）

電気ストーブに布団を隣接させた状態で睡眠しており、布団がヒーター部に近接したため、着火し、火災に至ったものと推定される。

② 平成21年11月5日（静岡県、性別・年代不明、軽傷）

（事故内容）

電気ストーブを使用して就寝したところ、木造住宅が全焼し、2人がやけどを負った。

(事故原因)

ヒーターガードに繊維痕が付着していることから、可燃物が接触したため着火し、火災に至ったものと推定される。

(3) 電気温風暖房機

① 平成20年11月2日（北海道、80歳以上・女性、軽傷）

(事故内容)

暖房機の風量調節を「強」にしたところ、温風吹き出し口の前に置いていた座いすから出火して、床、壁などを焼損し、1人が煙を吸って病院に搬送された。

(事故原因)

電気温風暖房機の温風吹出口の直近に座椅子が置かれていたため、温風により座椅子が高温となり発火し、延焼したものと推定される。

なお、本体表示及び取扱説明書の注意・警告事項に、『本体の近くに燃えやすい物を置かない。温風吹出口を塞がない。火災の原因となる。』の旨を記載している。

(4) 石油温風暖房機

① 平成23年1月28日（大阪府、60歳代・男性、軽傷）

(事故内容)

石油ファンヒーターを使用中、スプレー缶が爆発し、着火して周囲を焼損し、消火の際にやけどを負った。

(事故原因)

石油ファンヒーターの前に置いていたスプレー缶（殺虫剤）がファンヒーターの温風で過熱され、内圧の上昇により破裂するとともに、気化した可燃性ガスにファンヒーターの火が引火したものと推定される。

(5) ガス温風暖房機

① 平成22年11月19日（埼玉県、年齢・性別不明、製品破損）

(事故内容)

ガスファンヒーターの電源スイッチを入れたところ、漏えいしたガスに着火して機器を焼損した。

(事故原因)

ガスファンヒーターのガス接続口に専用ガスコードではなく、ガス用ゴム管を接続し使用したため、接続口からガスが漏れ、ガスファンヒーター内部にガスが吸引され、点火時に引火したものと推定される。

(6) ガスストーブ

① 平成22年4月22日（愛媛県、年代不明・女性、重傷）

(事故内容)

該製品を点火したところ、漏えいしていたとみられるガスに引火して爆発し、2名が負傷した。

(事故原因)

ガスストーブの器具栓つまみが「半開」の位置になってガスが充満していたところに

点火操作を行ったために、ガスに着火・爆発したものと推定される。
なお、当該製品には、立消安全装置は搭載されていなかった。

3. 暖房器具による事故の防止について

震災後は、節電指向により石油ストーブの需要が高まり、今まで使っていなかった古い暖房器具を持ち出して使用したり使い慣れていない暖房器具を使用したりする機会の増加が予想されます。暖房器具による事故を防止するため暖房器具を使用する場合は、次の点に注意してください。

- ① 布団、カーテンや新聞紙、雑誌など可燃物の近くでは使用しないでください。接触して火災となります。
- ② 洗濯物や衣類等を器具の上に吊したり、干したりしないでください。落下して触れ火災となります。
- ③ 就寝時や外出時は、使用しないでください。寝具などが触れ火災となります。
- ④ 換気せず使用し続けしないでください（密閉燃焼式を除く）。一酸化炭素中毒になる可能性があり非常に危険です。使用の際は必ず換気をしてください。
- ⑤ 定期的に清掃を行い、ほこり等を取り除いてください。
- ⑥ 異臭や不着火といった症状があれば、直ちに使用を中止しメーカー又は販売店に相談してください。
- ⑦ スプレー缶やカセットこんろ用ボンベを天板の上や温風のあたる所に放置しないでください。破裂して危険です。
- ⑧ 温風暖房機の温風の吹出口や吸気口をふさがないでください。異常燃焼して火災となります。

また、暖房器具の製品別には、次の点に注意してください。

詳しくは、製品の取扱説明書をよく読んで、正しく使用してください。

(1) 石油ストーブ、石油温風暖房機

- ① 給油する際は、完全に火が消えたことを確認してから給油してください。
- ② カートリッジタンクのふたが完全に締まっているかどうかを必ず確認し、給油口を下にして油もれのないことを必ず確認してから装着してください。
- ③ 給油時に間違えてガソリンを入れないように、灯油であることを必ず確認してください。異常燃焼して火災となります。
- ④ 換気せず使用し続けしないでください（密閉燃焼式を除く）。一酸化炭素中毒になる可能性があり非常に危険です。使用の際は必ず換気をしてください。
- ⑤ 不良灯油（※10）を使用しないでください。異常燃焼して火災となります。
- ⑥ 燃焼筒は正しくセットしてください。正しくセットしないと、異常燃焼して火災となります。

※10：変質灯油（持ち越した灯油など）又は不純灯油（汚れた灯油、水の混じった灯油など）など

(2) 電気ストーブ、電気温風暖房機

就寝時や外出時は、必ず電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

(3) ガスストーブ、ガス温風暖房機

- ① ガスホース及び接続具は、所定のものでお使いください。ガス漏れを起こす可能性があり非常に危険です。
- ② 換気せず使用し続けしないでください（密閉燃焼式を除く）。一酸化炭素中毒になる可能性があり非常に危険です。使用の際は必ず換気をしてください。
- ③ ひび割れて固くなった古いホースは使用しないでください。ガス漏れを起こす可能性があり非常に危険です。

以 上